

2024 年度

事業計画書

一般社団法人関青年会議所 2024 年度スローガン

一 新



理事長所信

理事長 山田信之

【はじめに】

2011年、私は24歳でこの一般社団法人関青年会議所に入会しました。入会当初は青年会議所のことは何も分からず、明確な入会動機もない状態でした。現在は年数を重ねるごとに青年会議所の使命を理解し、自身の目的も明確になりました。またここで得た機会や仲間のおかげで、自分自身が成長出来ていると感じており、今では心から信頼できる仲間もできました。一方で、自らの未熟さから多くの人に迷惑をかけたこともあり、青年会議所を辞めることを考えたこともあります。そんな時に私を押し留めたのは信頼できる仲間の存在と、逃げて何もう得られるものはないという想いからです。失敗を恐れず、使命を全うするため一歩踏み出しましょう。

明るい豊かな社会の実現という共通の目的を持って、共に運動や活動をしていくなかで、多くの人と出会い、多くの経験をする中で自らの器を大きくしていく、それが青年会議所だと私は考えます。小さな器を一生懸命磨くのではなく、失敗して恥をかって、悔しくても歯を食いしばり進んでいくこと、自分と違う価値観を持つ人を受け入れ認めることで少しずつ器を大きくしていくのです。これほどまでに成長と発展の機会を与えてくれる団体は他にはありません。その機会を手にするもしないも、それは自分次第です。自ら機会を掴み成長していこうではありませんか。

【青少年育成 ～記憶に残る体験～】

社会の変化は加速度的に速さを増し、将来の変化を予測することが困難な時代となりました。私たちの生活は物質的にはとても豊かになりましたが、少子化や核家族化が進行しています。

これからの時代を生きる子どもたちが成長し、自立するうえで必要となる生きる力を育むには、実現や成功などのプラス体験はもちろん、挑戦した結果、葛藤や挫折などのマイナス体験も含めた多様な経験をすることも必要不可欠です。そして、様々な経験をもとに好奇心を刺激し子どもたちに「もっと知りたい」「もっと学びたい」と思うような探究心を芽生えさせることで、子どもは自ら学び、自ら考え、主体的に行動できるようになります。主体性を持った子どもは何事にも積極的に挑戦し、行き詰ったとしても他の選択肢をつくり出すことができ、自らの未来を切り拓くことができます。

未来を担う子どもたちのために、家庭や地域などと連携・協働し、地域社会全体で、夢や希望に溢れ何事にも挑戦する心、そして自分自身を好きになるだけでなく相手を思いやる優しい心を養い、子どもたちが逞しく生きる力を育む運動を展開してまいります。

【まちづくり ～人と繋がるネットワーク～】

これまで関青年会議所は長い歴史の中で、まちづくりに結果を残す事業を数多く展開してきました。その根底にあるのは、地域の明るい未来を望む強い志と、課題に対して果敢に挑戦し続けた、私たちの想いです。私たちは自らが住み暮らす地域に対して、これからも住みよいまち、明るく豊かで持続可能なまちを目指して活動していかなければなりません。

私が考える明るい豊かなまちとは、皆が日々笑顔で過ごすことであると考えます。その一つとして、子と親に優しいまちづくりは必要不可欠です。そのためには、私たち自身が意識改革を行い、民間と行政そして企業が一体となって社会全体で子どもを育む空気や文化をつくる必要があるのではないのでしょうか。企業と連携を組み活動に取り組むことで、地域として子供達に対する理解は深まり、より深い課題に取り組んでいける土壌が出来上がり、地域全体で子育てしやすい環境を構築できると考えています。

また、持続可能なまちを実現するためには、行政、同じ様な課題を抱えた他地域との連

携が必要であると考えます。それぞれの課題へのアプローチの方法や、効果などを共有し新たな価値観や発想を取り入れ、社会により良い変化をもたらし、活気あふれるまちへとつながると信じています。

【会員拡大 ～次世代の為に～】

会員拡大は、私が入会した当時も恒久的に行われてきました。青年会議所は正会員の資格が40歳までという規則があり、常に会員の更新が行われるからこそ、様々な人にチャンスや成長の機会があります。しかし、全国的にも会員数が減少の一途を辿っている中、関青年会議所においても現在の会員数は、私が入会した当時の3分の1となっています。全メンバーが現状を真摯に受け止め、誰かがやってくれるではなく、メンバー一人ひとり自らが率先して会員拡大を行うことが必要です。

また、以前に比べて現在は様々な団体が存在しており、会員拡大を行っていく上で青年会議所の魅力を今一度確認することが大切です。私が考える魅力の1つとして青年会議所の三信条が挙げられます。1950年に青年会議所運動の行動綱領として生まれ、運動の本質を端的に表したもので、奉仕・修練・友情の元、地域のために事業計画を構築し、会議で議案を議論し、メンバーと共に事業を行うことで様々な学びや気づきを得ることが出来ます。この魅力を知っているのは、関青年会議所を卒業していった先輩諸氏も同様です。そうした先輩方のご協力も賜りながら、会員拡大を成功に導いていきます。貴重な個人の時間とお金を使い活動をする上で、地域活性化や自己成長、信頼出来る仲間を作ることにこれほど適した団体はないと確信しています。

【結びに】

今日もこうして青年会議所活動を行えているのは多くの方々のおかげです。家族や社員への感謝、ともに活動する仲間や67年という歴史をつくりあげてくださった先輩諸氏への感謝の気持ちは決して忘れてはいけません。そして、その気持ちを常に言葉にして伝えていきます。一方、私たちの活動はこのまちの明るい豊かな社会の実現のために役立っているのか。今の時代に即した青年会議所運動とは何なのか。時代は常に変化していく一方で、私たちらしい、私たちだからこそできる活動を今一度冷静に考え、新たに構築し直すことが今、求められているのです。

人生は挑戦の連続です。挑戦する前から無理だと決めつける先入観を捨て、人に語りたくなる社会を目指し、未来を生きる世代の笑顔を想い、私たちが考える夢や希望に溢れた持続可能な社会へとつながる大胆な事業を実行していきましょう。決して一人ではありません。必ずそばで支えてくれる仲間がいます。未知へと挑戦をする心、仲間を思い互いに認め合い、支え合う心が合わさった時、1つのチームとして輝きを放ち、最大限の力を発揮することができると確信しています。

私たちには関のまちをより良くする運動を起こすという使命があります。

次代を担う私たちの手で、時代に則した新しい関青年会議所をつくり上げていきましょう。

2024年度 一般社団法人関青年会議所

役員名簿

【 理 事 長 】	山田 信之
【 直 前 理 事 長 】	森 有生
【 副 理 事 長 】	西村 健太
【 監 事 】	多田 幸泰
【 外 部 監 事 】	田中 雄貴
【 専 務 理 事 】	丹羽 智彦
【 法 務 財 務 担 当 理 事 】	佐藤 孝昭
【 事 務 局 次 長 】	常川 紘也

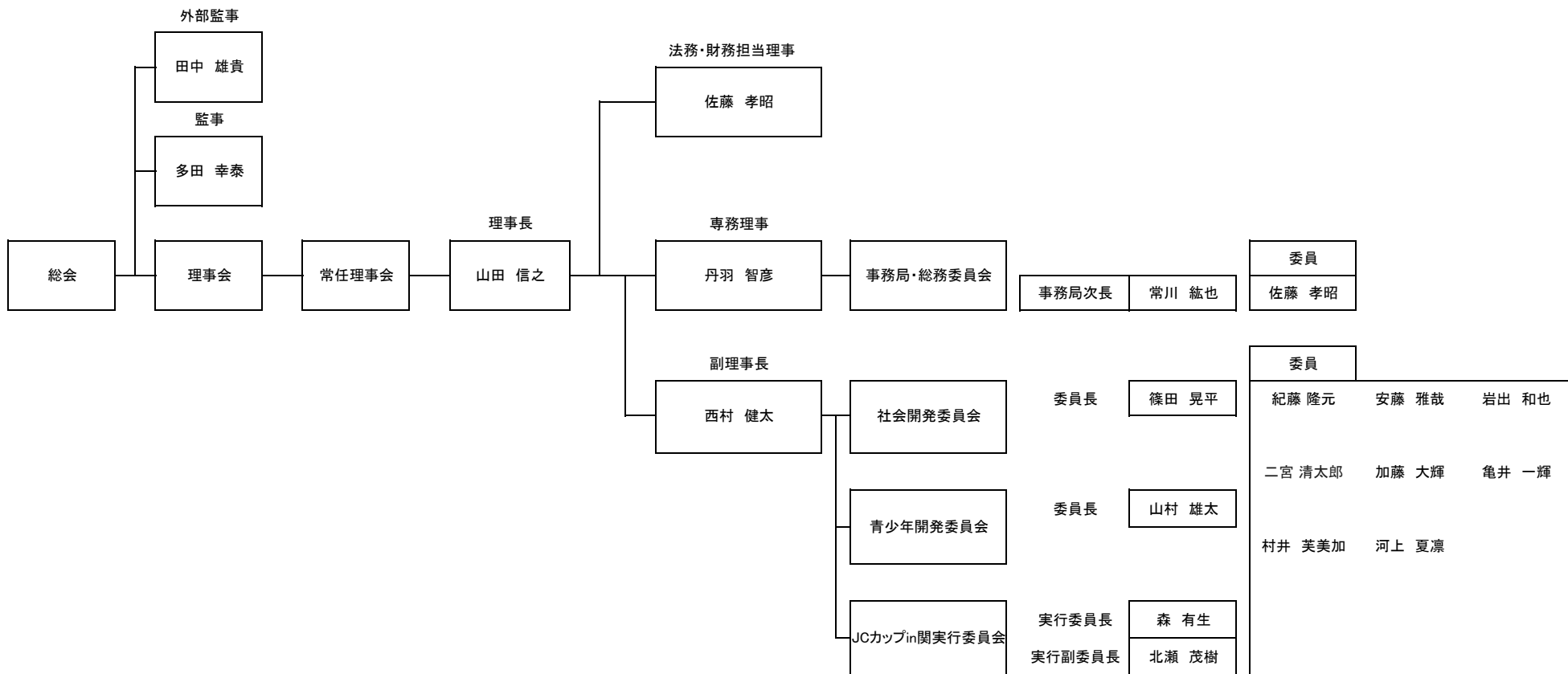
社会開発委員会 【委員 長】 篠田 晃平

青少年開発委員会 【委員 長】 山村 雄太

JC カップ in 関実行委員会 【実行委員 長】 森 有生

【実行副委員 長】 北瀬 茂樹

一般社団法人関青年会議所 2024年度組織図



2024年度（一社）関青年会議所

委員会事業計画

社会開発委員会

青少年開発委員会

JC カップ in 関 実行委員会

社会開発委員会事業計画書

【副理事長】 西村 健太

【委員長】 篠田 晃平

【委員】 安藤 雅哉 岩出 和成 加藤 大輝 亀井 一輝 村井 芙美加
二宮 清太郎 河上 泰子 紀藤 隆元

【委員会運営及び事業方針】

近年、日本では少子化が進み、中濃地区においても少子化によって、人口は減少の一途をたどっています。人口減少が進むと、税収減少による行政サービス低下だけでなく、小売、飲食、娯楽、医療関係などの生活関連サービスにも大きく影響を及ぼすと言われていています。サービスの低下はさらなる人口減少にも繋がり、早めの対策が求められています。そのような状況の中で、昨今子育てしやすいまちが注目され、子育てしやすいまちでは人口流入が加速すると共に出生率も高くなっています。よく評価のポイントとされているのが、子育て支援金や託児施設や医療施設、公園、図書館の充実、治安の良さ等ですが、最近では、子育てと両立しやすい仕事の環境も重視されています。我々も子育てしながら働きやすい企業を目指し、まちづくりに企業として貢献していくことが必要です。

3月例会では、本年度社会開発委員会は、子育てしやすい企業づくりの為に、現状の制度について知っていただくだけでなく、各企業において、現状抱える悩みや障害となっていることの解決を目指し、業種や会社規模など違いはありますが、それぞれ自分の企業では今後どうしたらいいかを考えていただく事業をいたします。

そして、中濃地域の青年会議所が力を合わせてまちづくりを目指していけば、地域に与える影響はより大きなものになります。子育てしやすいまちづくりの実現を通して、社員や家族、さらには地域に住む方が満足感を持って暮らせる明るい豊かなまちづくりを目指します。

また、10月例会では友好JCとの交流を通じて、今後のより良い関係づくりはもちろん、お互いの情報交換から今後の活動に活かします。

12月例会では、本年度をもって卒業されるメンバーを祝い、粛々と卒業式を執り行います。

最後に、社会開発委員会の事業を実現させるためには、全メンバー皆様の協力が必要です。メンバーからのご意見・ご指摘を尊重し、全員で一丸となり支え合いながら実現していきます。何卒宜しくお願い申し上げます。

【事業計画】

事業名	内容（目的・方法等）
3月例会(中青会合同例会)	子供と親に優しいまちづくりを目指す例会
10月例会	友好JCとの交流
12月例会	卒業生に素敵な思い出を残してもらう例会
例会出席者の把握	例会出席者の把握

【事業予算】

事業名	予算額	予算明細
3月例会(中青会合同例会)	¥100,000	講師、会場設営費等
10月例会	¥20,000	レンタサイクル代等
12月例会	¥30,000	会場設営費
合計	¥150,000	

【委員会年間スケジュール】

事業名		通年事業
1月		(通年) 会員拡大
2月		
3月	3月例会(中青会合同例会)	
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月	10月例会	
11月		
12月	12月例会	

青少年開発委員会事業計画書

【副理事長】西村 健太

【委員長】山村 雄太

【委員】安藤 雅哉 加藤 大輝 亀井 一輝 岩出 和也 村井英美加
二宮 清太郎 河上 泰子 紀藤 隆元

【委員会運営及び事業方針】

～自己決定力と挑戦する気持ち～

人工知能が台頭してから、社会の変化の速度がますます増し、変化の大きな時代が訪れました。情報機器も発達し、どこにいても一定以上のサービスを受けられるようになりました。その一方で、情報を与えられることに慣れてしまった子供たちは、自己決定することや挑戦することが苦手となっています。自己決定と挑戦は、個人の自立と成長を支え、自分自身の理想的な人生を築くために不可欠です。自己決定がなければ、他人の期待や社会の圧力に左右される可能性が高まり、自己充実感が得られません。また、リスクを恐れず挑戦しない限り、新たな経験や成功を手にするのは難しいでしょう。

そのために、本年度、青少年開発委員会では、自己決定能力や挑戦の気持ちを育てることで、子供たちが自信を持ち、Well-beingな状態で成長することができるように運動を展開してまいります。

5月例会では第38回わんぱく相撲関場所を行います。相撲という競技は、日本の伝統的なスポーツであり、そのルールや精神は価値観や道徳にも深く根付いており、自己決定能力と挑戦の気持ちを育むことに適した競技です。

相撲に真剣に向き合うことで、自分の目標を設定し、取り組み計画を立てる経験から「自己決定力」が養われます。取り組みでの相手との対戦を通じて、困難に立ち向かい、打ち勝とうという意欲の高まりから、「挑戦する気持ち」が育まれます。失敗や逆境から学び、向上心を持つことで、自己肯定感も強化され、総合的な成長が期待されます。

今年度は第29回わんぱく相撲岐阜ブロック大会が関青年会議所主管で開催されます。わんぱく相撲関場所だけでなく、ブロック大会でも自己決定することや挑戦することを大切にして、男女ともに全国大会の切符を手に入れられるよう支援していきます。

8月例会においても、子供たちに自己決定させる機会を設け、主体的に挑戦したくなる事業を行います。子供たちが自ら動こうと思うためには、子供たちにとって必然のあるコンテンツが準備されていることが必須です。挑戦は、成長の原動力であり、新たなスキルや知識を習得するための力強い手段です。挑戦することで、自己成長が促進され、自信がつきます。また、挑戦を通じて失敗や困難に遭遇することもあります。これらの経験から学び、進化する機会が得られます。結果が芳しくなくとも、挑戦すること自体が忍耐力と決断力を養い、問題解決能力を高める手段にもなります。

本年度の青少年開発事業を通して子供たちの自己決定能力や挑戦する気持ちが育まれるよう、メンバーからのご意見・ご指摘をいただき、先輩方にもご協力を仰ぎながら、全員で一丸となり楽しみながら実現していきます。皆様のご理解、ご協力賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

【事業計画】

事業名	内容（目的・方法等）
5月例会（第38回わんぱく相撲関場所）	子供たちが自己決定し、挑戦する心をもつ例会
6月例会（第29回わんぱく相撲岐阜ブロック大会）	主管：（一社）関青年会議所
第39回わんぱく相撲 男子全国大会	主催：（公財）日本相撲連盟 （公社）東京青年会議所
第5回わんぱく相撲 女子全国大会	主催：（公財）日本相撲連盟 （公社）松山青年会議所
8月例会（青少年育成事業）	子供たちが自己決定し、挑戦する心をもつ例会
例会出席者の把握	例会出席者の把握

【事業予算】

事業名	予算額	予算明細
5月例会（第38回わんぱく相撲関場所）	¥350,000	会場設営費等
6月例会（第29回わんぱく相撲岐阜ブロック大会）	¥50,000	登録費等
第39回わんぱく相撲 男子全国大会	¥85,000	登録費等
第5回わんぱく相撲 女子全国大会	¥30,000	登録費等
8月例会（青少年育成事業）	¥200,000	会場設営費、企画演出費等
合 計	¥715,000	

【委員会年間スケジュール】

事業名		通年事業
1月		(通年) 例会出席者の把握 会員拡大
2月		
3月		
4月		
5月	5月例会（第38回わんぱく相撲関場所）	
6月	6月例会（第29回わんぱく相撲岐阜ブロック大会）（第3週目を予定）	
7月	第39回わんぱく相撲 男子全国大会	
8月	8月例会（青少年育成事業）	
9月	第5回わんぱく相撲 女子全国大会	
10月		
11月		
12月		

JC カップ in 関実行委員会事業計画書

【実行委員長】 森 有生

【実行副委員長】 北瀬 茂樹

【委員】 安藤 雅哉 加藤 大輝 亀井 一輝 岩出 和也 村井 芙美加

二宮 清太郎 河上 泰子 紀藤 隆元

【委員会運営及び事業方針】

本年度、私たち JC カップ in 関実行委員会では家庭や地域などと連携し、子供たちの挑戦する心、相手を思いやる心、生きる力を育む事が出来る事業として JC カップ in 関を開催します。 関青年会議所としてはコロナ禍で友達同士や地域の繋がりが希薄になっていた 2022 年に第 1 回 大会を開催し、今回で第 3 回目の大会開催となります。

子供たちの頑張る姿を応援する家族や地域の方々、そして応援に応えようと挑戦する子供たちはチームが勝つ為にどうやって戦えばよいのかを考えながら本事業に取り組みます。その結果、勝つ事もあります負ける事もあり挫折も味わいますが、この経験が自分たちにとってプラス体験に繋がります。本年度も JC カップの魅力である「グッドルーザーの精神」(=たとえ勝負に負けたとしても相手を称えられる強く前向きな心)を学んでいただき、各試合後の対戦後には両チームに集まっていただき、お互いの良かったプレーや対応に対して意見交換を行い、お互いに称え合うことで友情を深める場も設けております。

昨今では全国大会まで繋がる大会が廃止傾向にあり、チームや選手のモチベーションの低下にも繋がっておりますが、JC カップ in 関を勝ち抜けば、岐阜ブロック大会、東海地区大会、そして全国大会まで繋がる大きなカップ戦となっており、子供たちのモチベーションアップにも寄与しています。本大会を通じて子供も大人も夢中になり地域と繋がるきっかけとなり、また来年も開催して欲しいと思っただけのように最善の努力をいたします。何卒皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

【事業計画】

事業名	内容(目的・方法等)
4月例会 JC カップ in 関	子供たちの挑戦する心、相手を思いやる心、生きる力を育む事業

【事業予算】

事業名	予算額	予算明細
4月例会	¥400,000	会場費、広告費、記念品、講師料
合計	¥400,000	

【委員会年間スケジュール】

事業名	通年事業	
1月	例会出席者の把握 会員拡大	
2月		
3月		
4月		4月例会 JC カップ in 関
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		

関青年会議所歴代理事長

No	年度	歴代理事長名	スローガン	会員数
1	1958年度	河村成勝	世界を結ぶ青年の力	46名
2	1959年度	亀井武司	若い力で経済建設	51名
3	1960年度	松田好一	JCの力で築こう明るい社会	54名
4	1961年度	田中次郎	JCの一人一人が社会の希望	58名
5	1962年度	小瀬木義博	JCは明日の世界の道しるべ	64名
6	1963年度	後藤司朗	経済の正しい成長になえJC	58名
7	1964年度	浅野英市郎	JCの若さで結べ世界は一つ	60名
8	1965年度	長村 勇	新時代築く若さと指導力	63名
9	1966年度	神谷 守	福祉国家創るさきがけ果たせJC	60名
10	1967年度	平田康夫	和をもって責任ある行動を	65名
11	1968年度	宮地 進	日本に正しい行くてしめせJAYCEE	59名
12	1969年度	石原鎗三	JAYCEEの総意で示せ日本の姿勢	61名
13	1970年度	福田莞爾	70年代への勇氣ある挑戦を	59名
14	1971年度	神谷 清	JCマンとして指導力と決断力を養おう	60名
15	1972年度	服部 昇	変革に対応できる指導力を	74名
16	1973年度	加藤耕三	人間的な成長を基にJC運動を	76名
17	1974年度	薫田健吾	すがすがしいJC運動を	84名
18	1975年度	坂井敏明	愛と心全ての事業へ深い関心と理解を行動には心を	94名
19	1976年度	兼松誠吾	厳しくかえり見よう20年の歩み	101名
20	1977年度	齋藤榮一	思考と行動語ろう明日の刀都	102名
21	1978年度	石丸継治	友愛と協調	100名
22	1979年度	清水公男	朗らかにさわやかに一丸となって高めよう価値あるJC運動	99名
23	1980年度	平田賢一郎	燃やせ情熱絶やさぬ炎響け鎚音豊かな未来	101名
24	1981年度	山田武司	挑戦と創造	96名
25	1982年度	遠山義勝	みなおそう25年の歩み考えよう明日のわがまち	95名
26	1983年度	兼松克司	高めよう国際感覚はぐくもう創造性豊かな心	95名
27	1984年度	炭竈好司	燃やせ情熱勇氣ある挑戦	103名
28	1985年度	吉田房生	創造と努力新たな鎚音	101名
29	1986年度	森 俊雄	大地を踏みしめ今出発輝く未来をめざして	102名
30	1987年度	渡辺孝雄	挑戦する心	103名
31	1988年度	清水善光	合意と実行	111名
32	1989年度	鈴木良春	21世紀(あす)へ転換期からの発信	112名
33	1990年度	後藤明彦	DO IT NOW	100名
34	1991年度	山田正樹	夢・無限大 DYNAMIC INNOVATION	101名
35	1992年度	田中 彰	<感><動> 一変革をめざして一	104名
36	1993年度	遠藤宏治	深思考 新展開	106名
37	1994年度	伊佐地英俊	まちにひとに夢の架け橋を ただひたすらに、ただひたむきに	103名
38	1995年度	清水 徹	心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くす	105名
39	1996年度	浅野欽一郎	Break Through (ブレイクスルー)	104名

関青年会議所歴代理事長			スローガン	会員数
No	年度	歴代理事長名		
40	1997年度	井森一夫	「礎」=未来(あす)を目指して=	107名
41	1998年度	中田守彦	絆を生かし めざせ共創社会	98名
42	1999年度	坂井一三	心・絆・まち～思いやりの心が未来を創る～	90名
43	2000年度	土屋泰弘	感動 WE CAN DO IT	81名
44	2001年度	片岡稔喜	START UP 21	74名
45	2002年度	兼松誠司	活力	69名
46	2003年度	加藤浩二	DO ONE'S BEST ～夢の実現のために～	65名
47	2004年度	西村竜一	大変革の時代、その当事者たれ 今、私が、ここから	64名
48	2005年度	加藤和洋	JC道場 愛・夢・元氣	64名
49	2006年度	木村 聡	志 ～大志を抱き、自らの意志で～	66名
50	2007年度	古田貴巳	響け！ 関JCシンフォニー～誇りと使命感をもって～	64名
51	2008年度	松田一浩	夢を語らい、想いを遂げる ENJOY JC	60名
52	2009年度	金田尚之	不易流行～真理を知りて新たな道あり～	54名
53	2010年度	吉田宰志	SMILE～笑顔あふれる未来づくり～	58名
54	2011年度	森 俊輔	誠実 ひたむき～まちを愛する志民の創出～	62名
55	2012年度	宮部英門	清泉湧出 ～あたたかい思いやりの心が溢れるまちの創造～	55名
56	2013年度	杉浦康弘	We are all one ～共に踏み出そう新たな一歩を～	46名
57	2014年度	宮本覚道	報恩感謝～喜びあふれる未来へ向かって～	42名
58	2015年度	大須賀敏	挑戦 ～ おもいをカタチにするために～	40名
59	2016年度	山田和正	原点回帰 ～ 輝く未来へ向かって～	37名
60	2017年度	鈴木恵介	自創 ～ 明日のために今を生きる～	38名
61	2018年度	加藤正文実	鍛錬 ～ 自らを鍛え、まちの未来を切り開く～	40名
62	2019年度	小島祐治	率先励行 ～ 今と未来を繋ぐために～	38名
63	2020年度	山中孝浩	行動力～その一歩が希望に満ちた未来を創る～	28名
64	2021年度	田中雄貴	和すれば強し	22名
65	2022年度	多田幸泰	強いJCへ、そして強いJAYCEEへ	21名
66	2023年度	森 有生	変化を乗り越え、最高の結果に変える。	22名
67	2024年度	山田信之	一新	18名